

## 4 事業連携校の取組

### (1) 奈良高等学校の取組

#### ア 本校の概要

本校は平成16年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、本年度で18年目を迎えている。本校は、これまで先進的な科学技術の発展に資するよう理科・数学を中心とした教育を通じて、生徒の科学分野に対する興味・関心を深め、将来の科学技術を担うグローバルリーダーの育成・創出を図るとともに、中核拠点校として地域の理数系教育の向上・普及に貢献できるよう努めてきた。具体的には大学、企業及び研究機関等の協力をいただきながら本校単位制を生かして①全生徒が3年間を通して科学的に探究する力を系統的に育成する教育課程の実施、②教科等横断的な学校設定教科科目の開発、③ルーブリック評価の研究、④海外研修等による国際性の涵養、⑤地域における理数系探究活動の普及・促進に取り組んできた。

#### イ WWL事業連携校としての取組

##### ー「WWLコンソーシアム構築支援事業」課題研究発表会への参加・発表ー

『WWLコンソーシアム構築支援事業』の拠点校と連携校において、生徒が取り組んだ課題研究について発表の機会を設け、お互いの取組を情報共有することで、それぞれの課題研究の取組をさらに深め、学習活動の活性化や学習指導の円滑な実施を図る」という目的で企画・開催された「WWLコンソーシアム構築支援事業」課題研究発表会（令和4年2月1日）に本校代表の研究グループが参加・発表した。当該グループの研究内容は奈良の伝統産業「製墨」とも関連する「煤形成の科学的追究」であり、当日は「Analysis of Soot Formation in a Diffusion Flame Using Rapeseed Oil: Toward Elucidation of the Mechanism of Soot Formation」との題目で発表を行った。発表では、独自の実証結果とその解釈は勿論のこと、その前提となる「煤形成に関する国際的な研究動向」についても言及した（下図参照）。

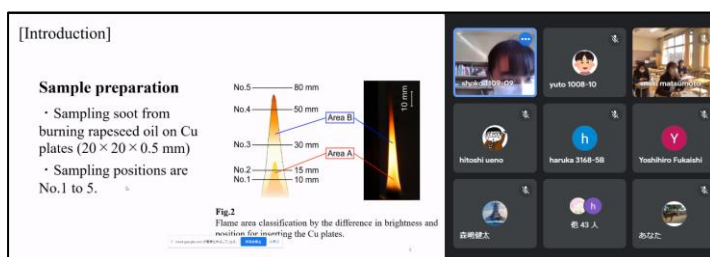


図 発表風景（オンライン形式）

#### ウ 今後の取組

来年度以降、上記発表会へ積極的に参加していくと共に、SSH指定校である本校とWWL指定校である国際高校、及びそれぞれの連携校との協力・連携を強化し、より協働的な活動を企画・推進していける体制づくりを推進していきたい。